西ノ島町　人口ビジョン

令和２年３月

西　ノ　島　町

目　次

第 1 章 人口の動向分析 1
1-1. 人口動向分析 1
1）総人口及び年齢3区分別人口の推移 1
2）男女別 5 歳刻み人口の変化 2
3）直近5年間の人口推移 3
4）出生・死亡・転入・転出の推移（各年 10 月 1 日から翌年の 9 月 30 日までの移動の状況） .4
1-2. 自然動態の分析 6
1）合計特殊出生率 6
2）未婚率 7
1-3. 社会動態の分析 9
過去 10 年の地域別移動特性 9
直近2年の地域別移動特性 10
第 2 章 将来人口の分析 11
2-1. 将来人口の予測（国立社会保障・人口問題研究所の推計値） 11
2-2. 前回目標値との比較検証 12
第 3 章 人口の将来展望 13
3-1. 人口減少の克服に向けた基本姿勢 13
3-2. 将来人口の設定 14
3-3. 自然増減の設定 15
3-4. 社会増減の設定 15

第1章　人口の動向分析

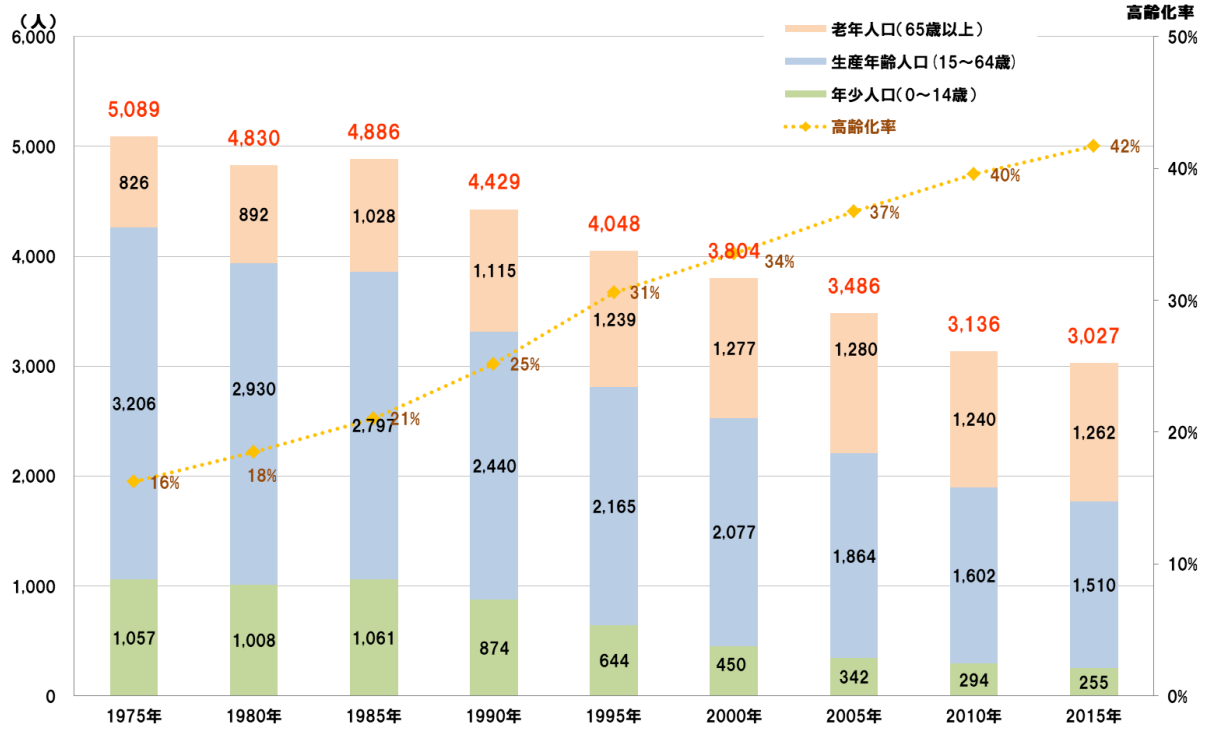
1-1. 人口動向分析

1）総人口及び年齢3区分別人口の推移

西ノ島町の総人口は 1985 年に一時的に増加に転じたものの継続して減少傾向にあり、2015 年時点の総人口は 3,027 人、高齢化率 42%となっている。

総人口では 1975 年の約 60%にまで減少しており、特に年少人口の減少率は大きく、1/4 程度になっている。

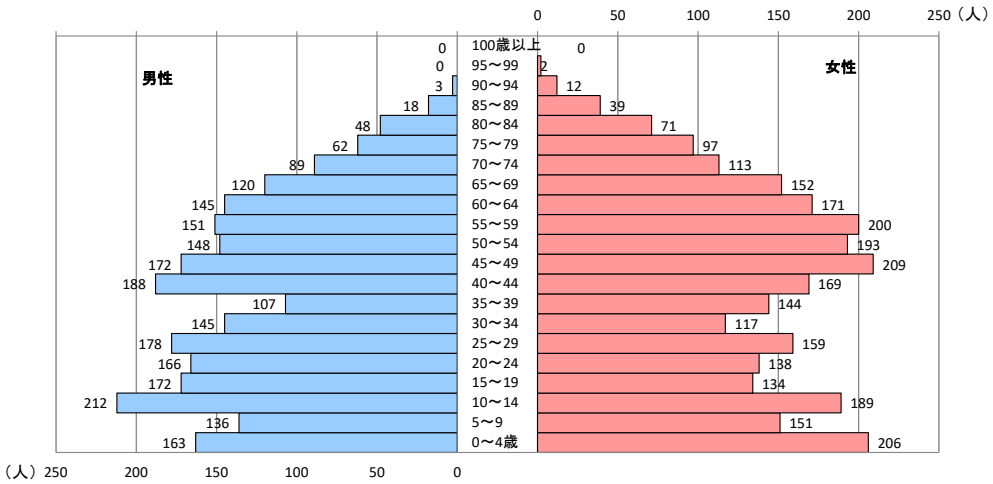
年齢 3 区分別人口の推移



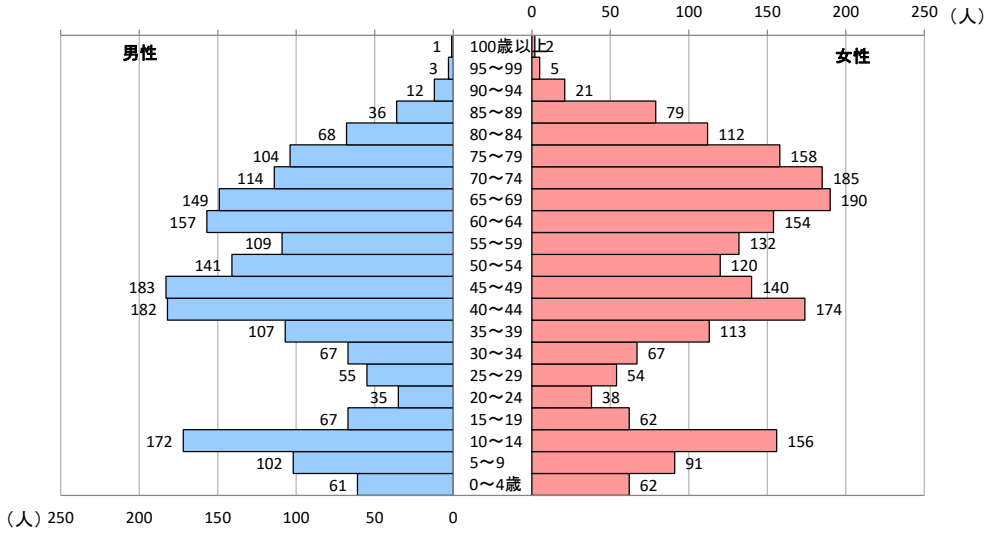
出典：国勢調査

2）男女別 5 歳刻み人口の変化

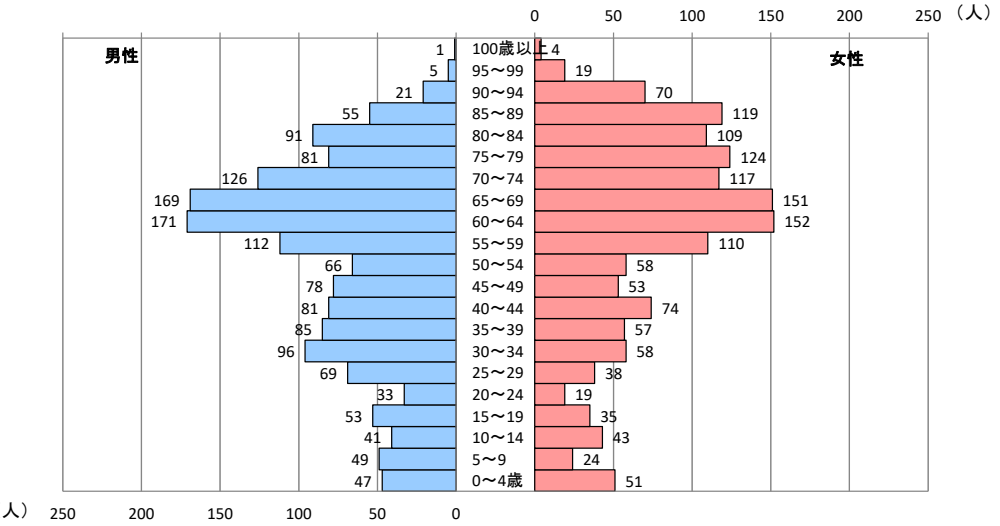
人口ピラミッド（1975 年）



人口ピラミッド（1995 年）



人口ピラミッド（2015 年）

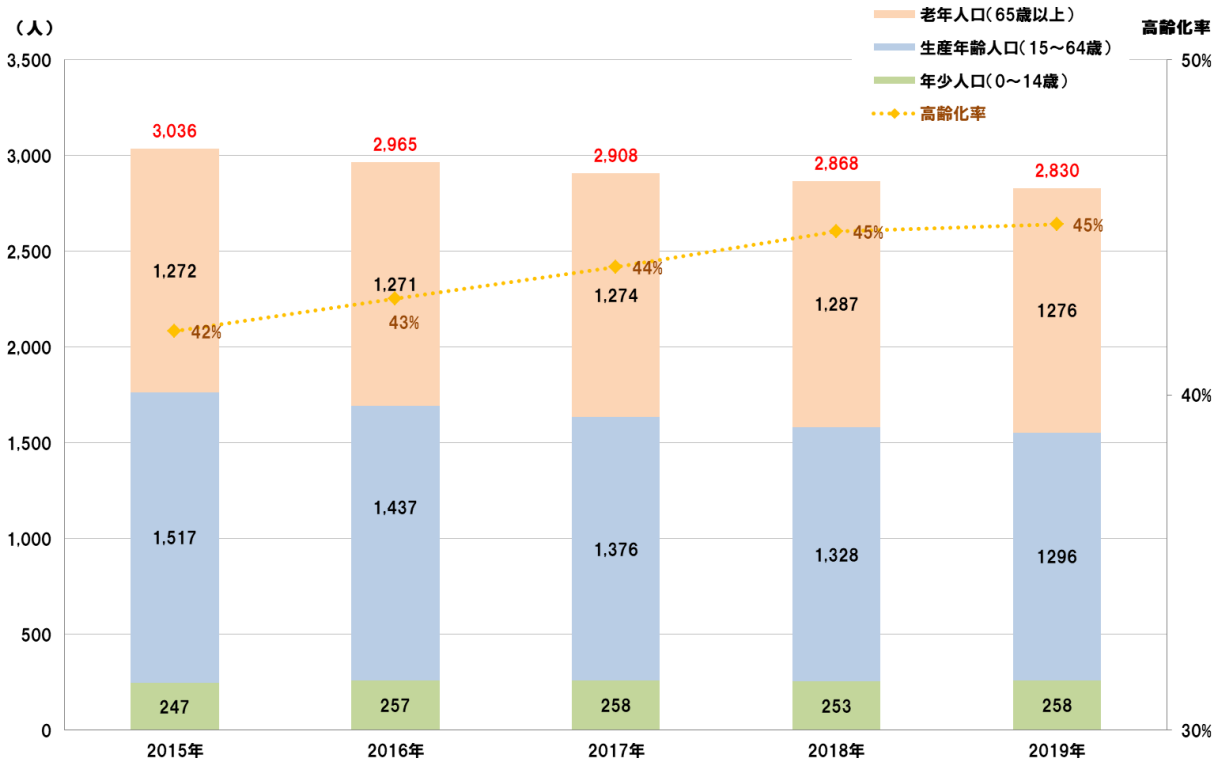


出典：国勢調査

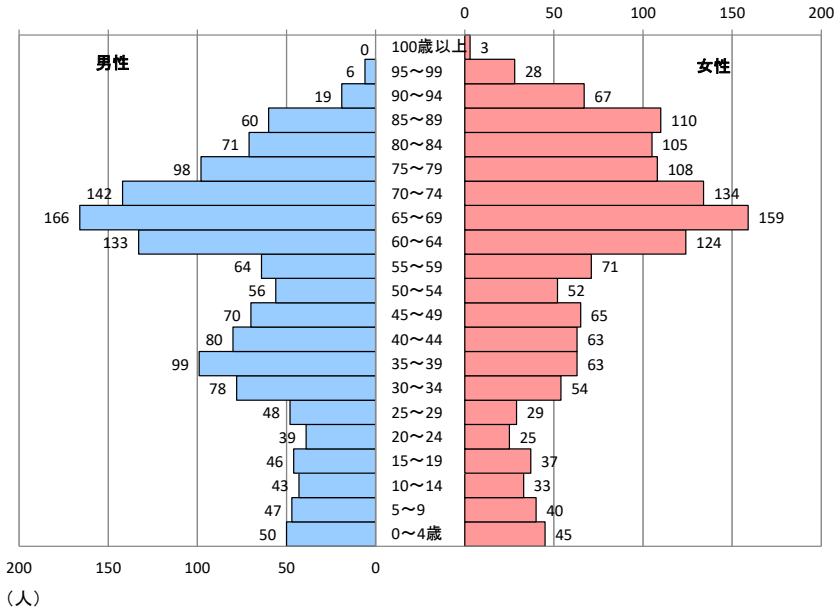
3）直近5年間の人口推移

住民基本台帳ベースの 2019 年 1 月 1 日時点の総人口は 2,830 人となっており、高齢化率は 45%に上昇しており、人口減少と高齢化率の上昇傾向は今も続いている。ただし、高齢者の実数は横ばい状態が続いているが、今後は徐々に減少していくことが想定されます。

直近 5 年間の年齢 3 区分別人口の推移



人口ピラミッド（2019 年）



男女別年代別人口変化
（2015 年⇒2019 年）

性別	男	女
総数	▲ 115	▲ 70
100歳以上	▲ 1	▲ 1
95～99	1	9
90～94	▲ 2	▲ 3
85～89	5	▲ 9
80～84	▲ 20	▲ 4
75～79	17	▲ 16
70～74	16	17
65～69	▲ 3	8
60～64	▲ 38	▲ 28
55～59	▲ 48	▲ 39
50～54	▲ 10	▲ 6
45～49	▲ 8	12
40～44	▲ 1	▲ 11
35～39	14	6
30～34	▲ 18	▲ 4
25～29	▲ 21	▲ 9
20～24	6	6
15～19	▲ 7	2
10～14	2	▲ 10
5～9	▲ 2	16
0～4歳	3	▲ 6

出典：住民基本台帳

4) 出生・死亡・転入・転出の推移（各年 10 月 1 日から翌年の 9 月 30 日までの移動の状況）

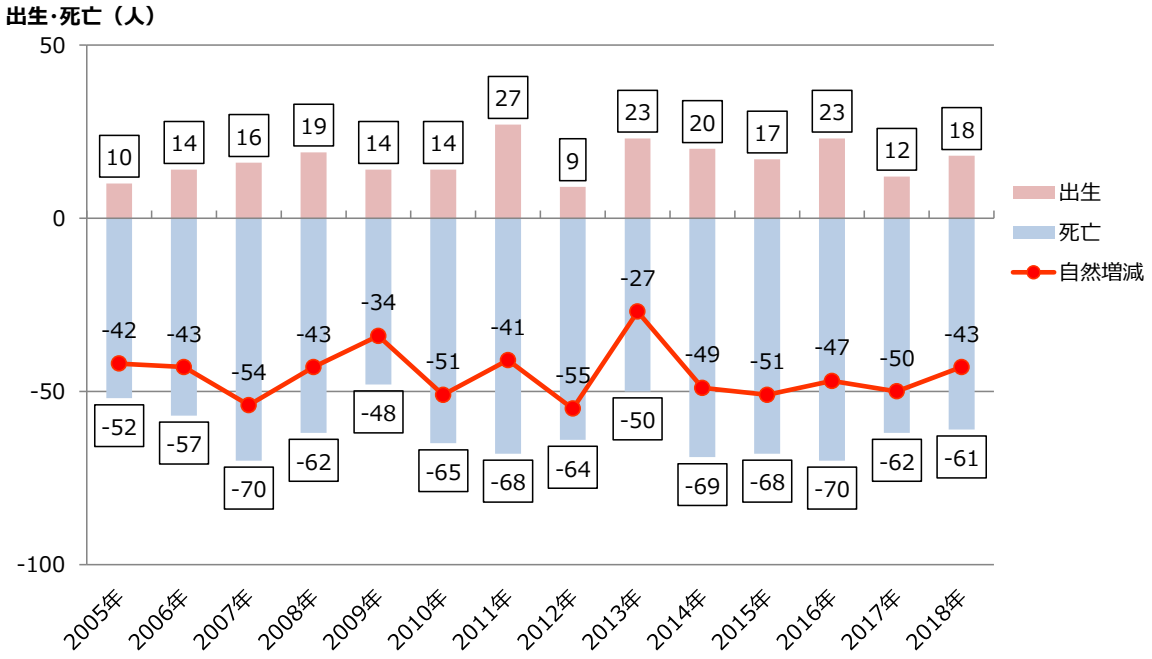
①自然増減

・出生数はここ数年 20 人前後で増減を繰り返している。

・死亡数は約 60 人程度で変化はない。

・年間の自然増減（出生数―死亡数）は、減少が続いており、現在は概ね年間 40～50 人程度の減少が続いている。

自然増減の推移



出典：しまね統計情報データベース　推計人口

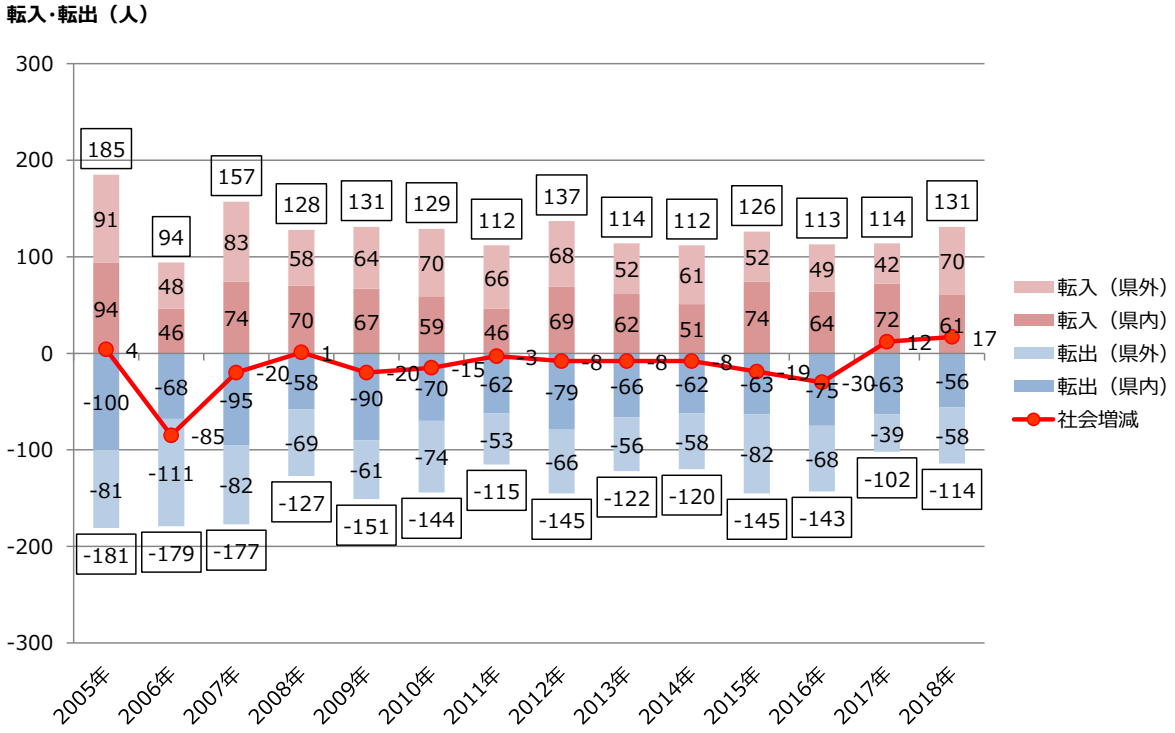
②社会増減

・転入者数は近年 110 人程度で推移しており、2018 年は 130 人程度の転入者を記録した。

・転出者数は、増減を繰り返していたが、2017 年以降は少し減少した。

・社会増減（転入数―転出数）は、おおむね均衡していたが、2017 年、2018 年は転入超過に転じている。

社会増減の推移



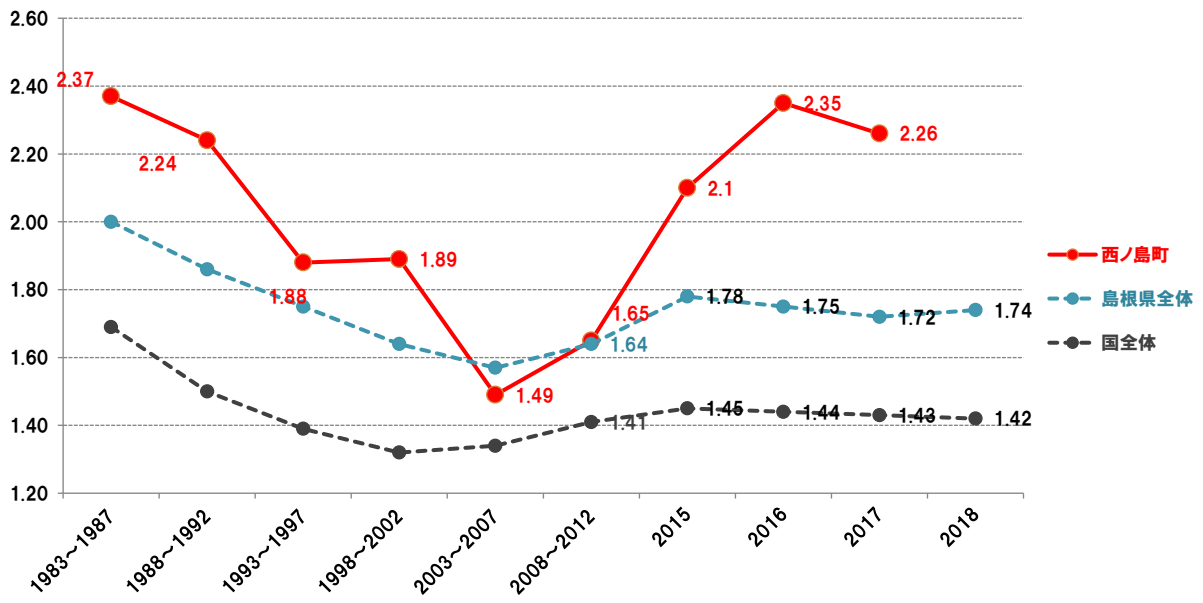
出典:しまね統計情報データベース　推計人口

1-2. 自然動態の分析

1）合計特殊出生率

西ノ島町の合計特殊出生率は、90 年代までは県平均を上回ってきたが、近年はあまり差が見られない。近年の傾向では、2.1 以上の数値に回復しているが、出生数が大きく伸びていないので、全体的に 15 歳～45 歳の女性人口の減少によるところが大きいと思われる。

合計特殊出生率の推移



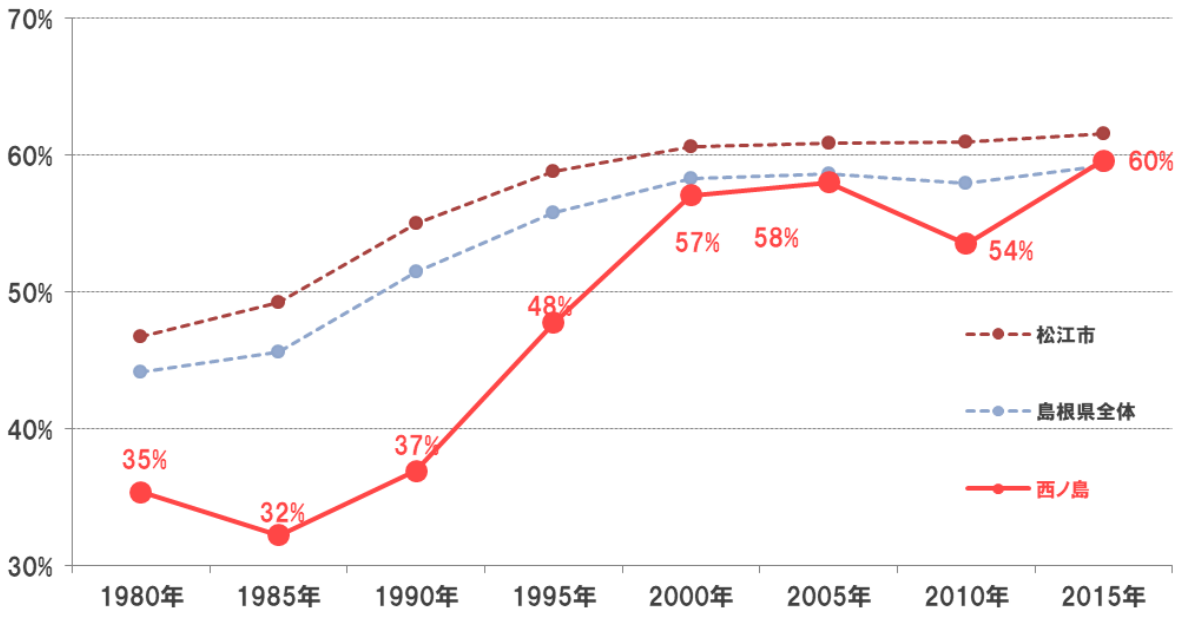
出典：人口動態保健所・市区町村別統計及び厚生労働省　人口動態統計より

2）未婚率

15-39 歳人口の未婚率を地域別に比較すると、西ノ島町は 1990 年頃まで著しく未婚率が低かったが、1995 年以降急激に上昇しており、現在は他地域と比較しても大きな差は見られなくなっている。

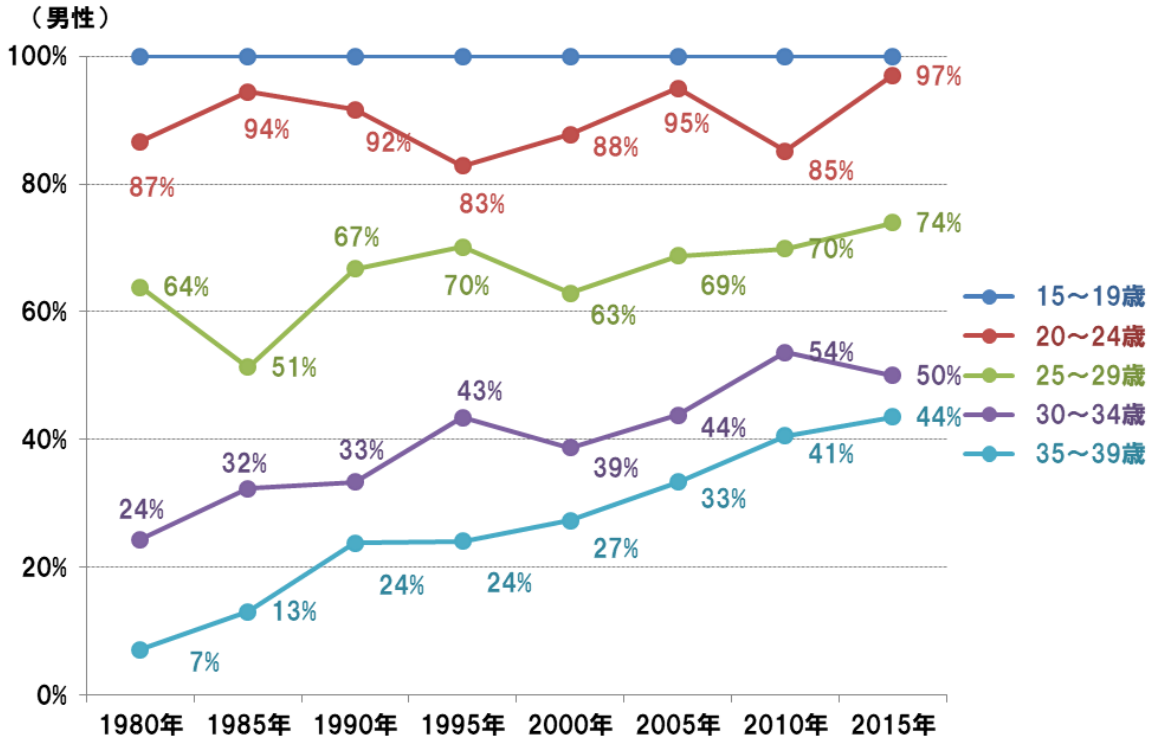
未婚率を男女別・年齢別に詳しくみると（次頁）、 全体的に未婚率が上がっている中、特に 20 代前半女性の 1995 年からの上昇が著しい。

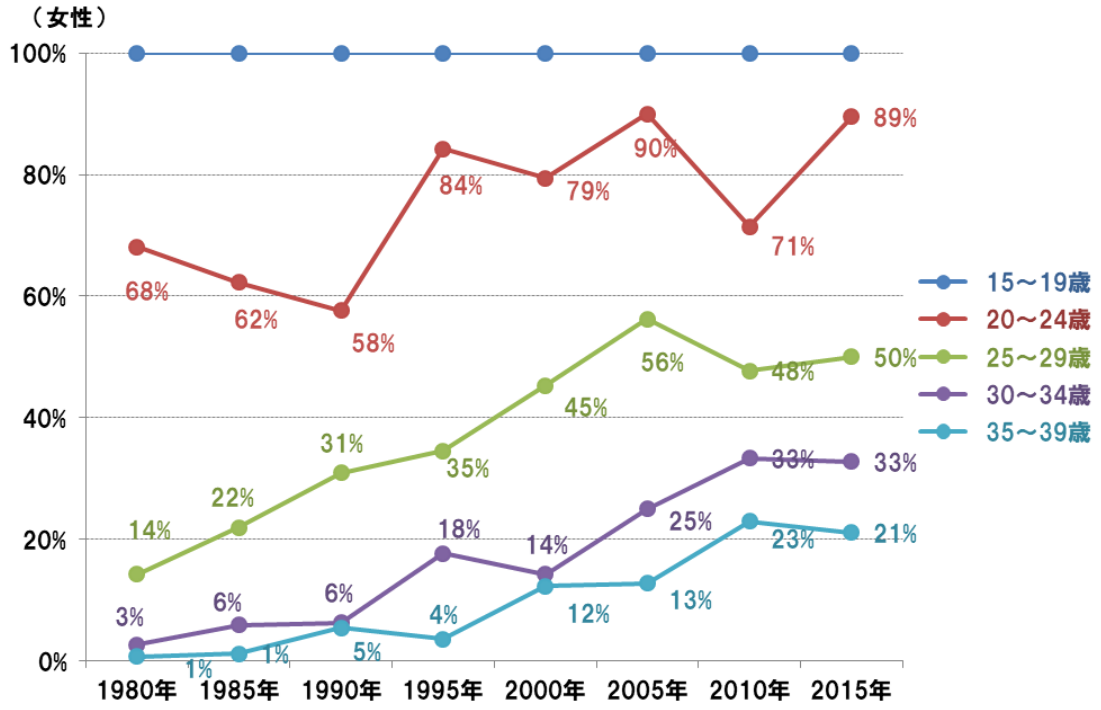
未婚率の推移（15～39 歳、男女平均）



出典：国勢調査

年齢 5 歳階級別の未婚率の推移





出典:国勢調査

1-3. 社会動態の分析

過去 10 年の地域別移動特性

直近 10 年(2009～2018 年)の総移動人数は、県外では大阪、鳥取、広島が多く、県内では松江、隠岐の島、出雲が多い傾向にある。

転出と転入を全体で比較してみると、-66 人と転出超過になっている。どちらかというと県内での転出超過が多くなっている。

直近 10 年の地域別移動特性

区分	ランキング	自治体名	転入者数（人）	転出者数（人）	総移動量（人）	転入-転出
			a	b	a+b	a-b
県外	1	大阪府	101	107	208	▲ 6
	2	鳥取県	63	94	157	▲ 31
	3	広島県	44	59	103	▲ 15
	4	兵庫県	49	47	96	2
	5	東京都	40	47	87	▲ 7
県内	1	松江市	231	283	514	▲ 52
	2	隠岐の島町	120	96	216	24
	3	出雲市	85	105	190	▲ 20
	4	海士町	61	66	127	▲ 5
	5	浜田市	40	32	72	8
	6	知夫村	30	19	49	11
合計	県外		594	613	1,207	▲ 19
	県内		668	715	1,383	▲ 47
	全体		1,262	1,328	2,590	▲ 66

出典:しまね統計情報データベース　推計人口

直近2年の地域別移動特性

社会増を達成した 2017 年、2018 年の総移動人数は県外では大阪、鳥取、広島が多く、県内では、松江、隠岐の島、出雲が多い傾向にある。

県内、県外とも合計では転入超過になっている。

直近2年の地域別移動特性

区分	ランキング	自治体名	転入者数（人）	転出者数（人）	総移動量（人）	転入-転出
			a	b	a+b	a-b
県外	1	大阪府	20	19	39	1
	2	鳥取県	10	14	24	▲ 4
	3	広島県	16	6	22	10
	4	東京都	10	6	16	4
	5	兵庫県	5	8	13	▲ 3
県内	1	松江市	49	42	91	7
	2	隠岐の島町	25	21	46	4
	3	出雲市	19	16	35	3
	4	海士町	14	15	29	▲ 1
	5	知夫村	6	6	12	0
	6	浜田市	2	6	8	▲ 4
合計	県外		112	97	209	15
	県内		133	119	252	14
	全体		245	216	461	29

出典:しまね統計情報データベース　推計人口

第2章　将来人口の分析

2-1. 将来人口の予測（国立社会保障・人口問題研究所の推計値）

2015 年の国勢調査結果は、前回目標した「人口減少抑制モデル」を上回った結果になっており、新たに示された推計値も上方修正されている（2045 年：1,490 人⇒1,690 人）。

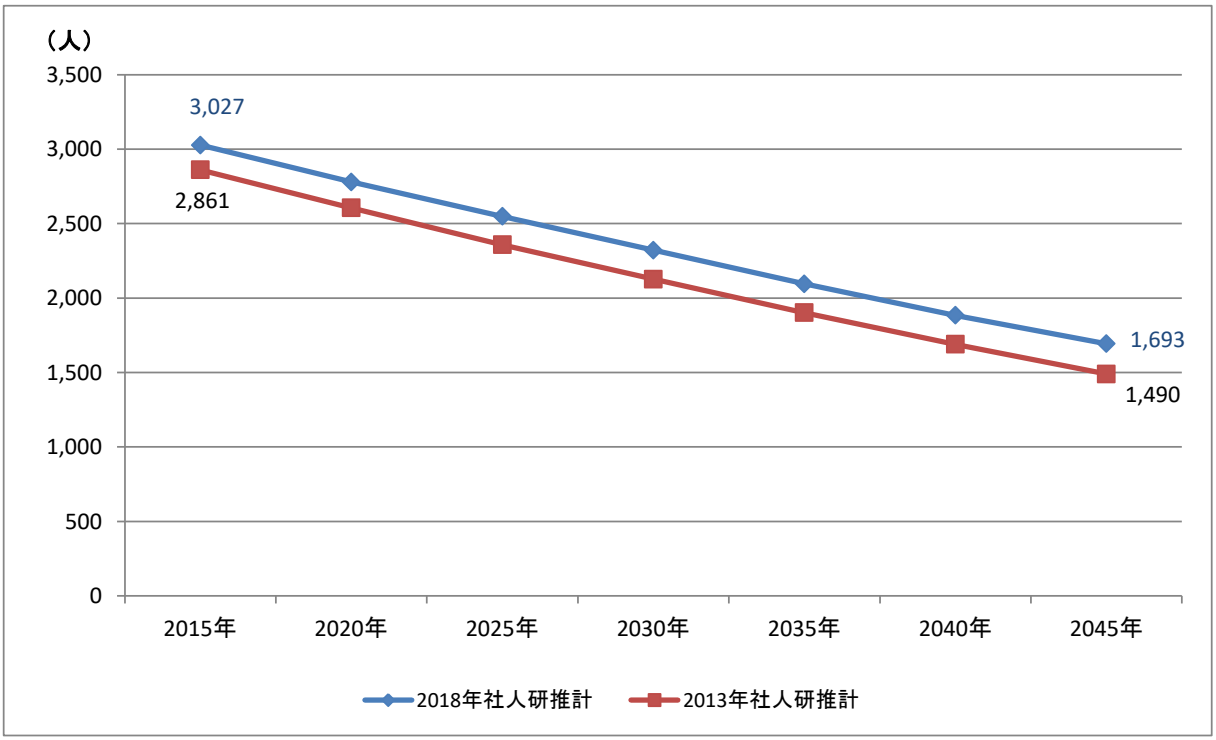


図　社人研の推計値

2-2. 前回目標値との比較検証

前回の人口ビジョンの目標値は、2015 年で 2,855 人、2020 年で 2,649 人となっており、2015 年で 172 人、2020 年においてもこのままの趨勢で推移すると、100 人程度（2019 年時点では約 180 人の差）は目標値を上回る見込みです。

年少人口も 2017 年から微増傾向にあり、16 人増加しています。

生産年齢人口は、団塊世代の高齢化（65 歳以上に到達）により減少傾向にありますが、男性を中心とする UI ターン等の増加により、目標値を上回る見込みです。ただし、女性の減少数の方が多く、男女比が拡大しつつあります。特に 20～39 歳までの男女比は、2019 年推計人口では概ね 65：35 となっています。

2019年推計人口

性別	男	女
総数	1,461	1,369
0～4歳	57	41
5～9	42	45
10～14	49	30
15～19	34	37
20～24	47	18
25～29	54	27
30～34	78	46
35～39	97	61
40～44	87	61
45～49	84	69
50～54	80	46
55～59	66	66
60～64	118	131
65～69	167	151
70～74	152	132
75～79	98	118
80～84	69	99
85～89	57	89
90歳以上	25	102
0～14歳	**148**	**116**
15～64歳	**745**	**562**
65歳以上	**568**	**691**

前回2020年目標値

性別	男	女
総数	1,280	1,368
0～4歳	33	31
5～9	34	31
10～14	48	28
15～19	32	30
20～24	39	30
25～29	35	26
30～34	49	41
35～39	90	51
40～44	70	60
45～49	74	72
50～54	47	53
55～59	58	62
60～64	97	115
65～69	154	153
70～74	155	144
75～79	110	107
80～84	66	106
85～89	55	97
90歳以上	35	129
0～14歳	**114**	**90**
15～64歳	**591**	**542**
65歳以上	**575**	**736**

2019年と2020年前回目標値との比較

性別	男	女
総数	181	1
0～4歳	24	10
5～9	8	14
10～14	1	2
15～19	2	7
20～24	8	▲ 12
25～29	19	1
30～34	29	5
35～39	7	10
40～44	17	1
45～49	10	▲ 3
50～54	33	▲ 7
55～59	8	4
60～64	21	16
65～69	13	▲ 2
70～74	▲ 3	▲ 12
75～79	▲ 12	11
80～84	3	▲ 7
85～89	2	▲ 8
90歳以上	▲ 10	▲ 27
0～14歳	**34**	**26**
15～64歳	**154**	**20**
65歳以上	**▲ 7**	**▲ 45**

（島根県推計人口、前回人口ビジョンより、引用・作成）

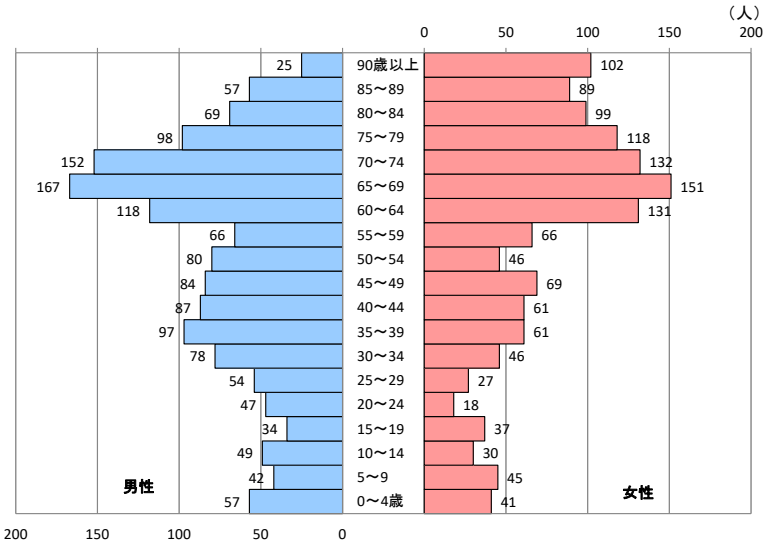


図　人口ピラミッド（2019 年推計人口）　（出典：島根県推計人口）

第3章　人口の将来展望

3-1. 人口減少の克服に向けた基本姿勢

ここ５年間の取り組みにおいて、一定の成果が得られ、人口減少の抑制が図られている状況である。今後も、これまで取り組んできた基本姿勢を維持・拡充し、持続可能な地域づくりを推進する必要がある。

特にここ５年間の成果で水産業を中心とした男性の移住・定住は促進されましたが、女性の移住・定住は十分に進んでいない。

そこで、第２期計画では、バランスの良い人口構成の維持や将来を担う子どもたちが減少しないように、目指す姿として、「人の集う島へ　～わくわく・らくらく、子育てしたくなる島づくり～」を掲げた。

1)　基本目標１：西ノ島町への新しい人の流れをつくる（移住・定住）

戦略で目指す姿「人の集う島へ　～わくわく・らくらく、子育てしたくなる島づくり～」の実現に向けては、まずは西ノ島町が持つ魅力を磨き、外部に発信して関心を高め、訪問する人や応援する人を増やしつつ、結果として島外流出の抑制やUIターン者等を増やしていくことが求められます。このことを踏まえ、第１の基本目標には『西ノ島町への新しい人の流れをつくる』を定めました。

2) 基本目標２：西ノ島町の資源を活かし、安定した雇用を創出する（産業・雇用）

基本目標1の実現に向けた取り組みにより新しい人の流れを作っていくには、その人が西ノ島町で働く場所が見つからなければ定住には繋がりません。特に離島である西ノ島町は、働く場を他の自治体に求めることが難しい状況にあります。このことを踏まえ、第２の基本目標には『西ノ島町の資源を活かし、安定した雇用を創出する』を定めました。

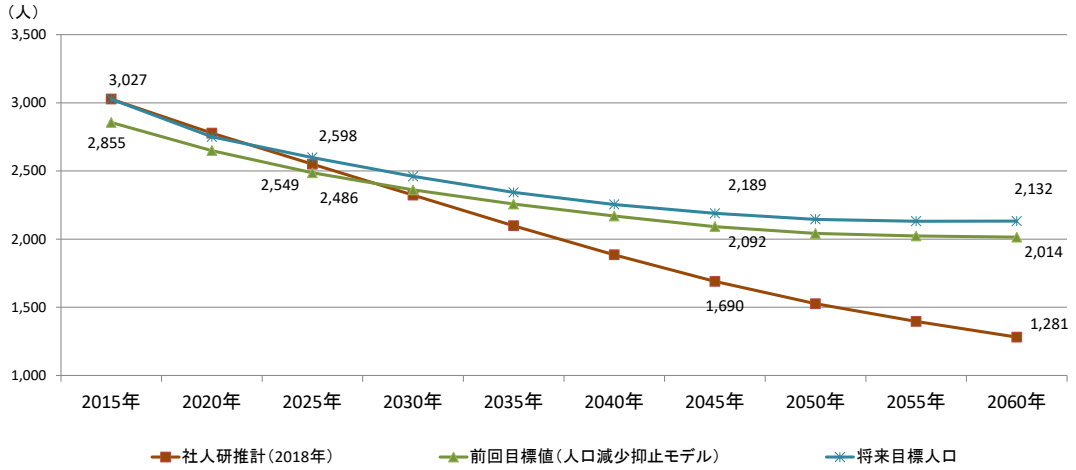
3) 基本目標３：結婚・出産・子育ての希望を叶える（結婚・子育て）

移住・定住政策、産業・雇用政策による子育て世代の確保は、目指す姿の実現に向けた重要な取り組みですが、持続可能な安定した地域社会を維持していくには、年少人口の維持・増加は必要不可欠です。このことを踏まえ、第３の目標には『結婚・出産・子育ての希望を叶える』を定めました。

3-2. 将来人口の設定

2020 年時点で、概ね 100 人程度前回の目標値を上回る予想であり、これを維持するような将来人口を目指すものとする。

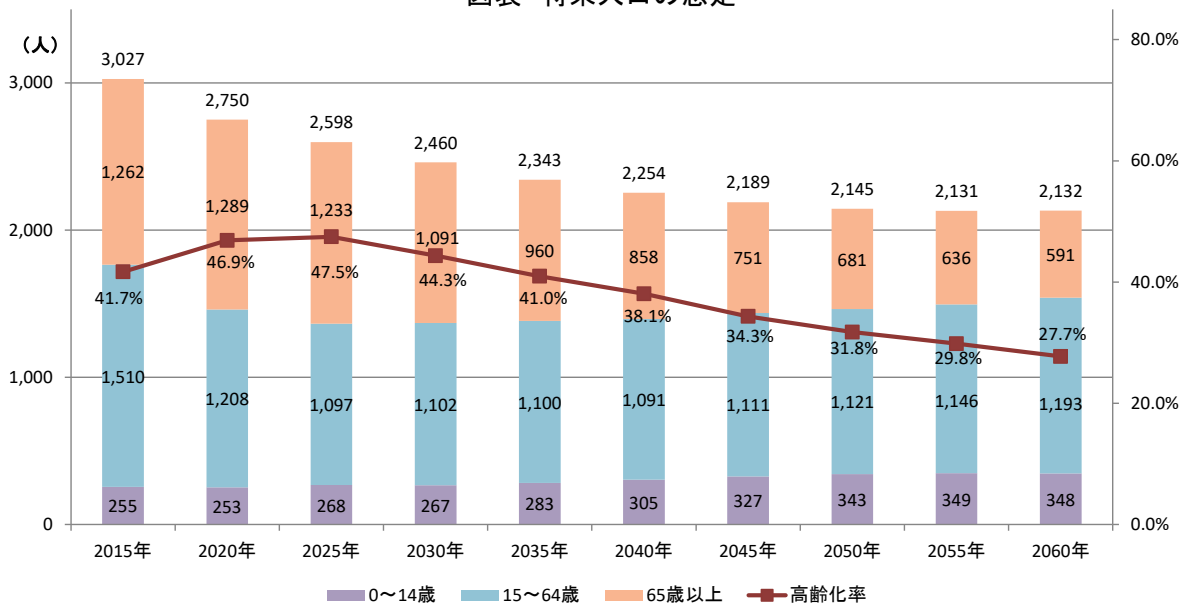
具体的には、合計特殊出生率を「国立社会保障・人口問題研究所」(社人研)の 2020 年の設定値の 2.18 を維持するとともに、移動数としては社人研の想定値より、若い世代を中心に、年間 8～9 人程度改善するように設定することで、2060 年で約 2,130 人の総人口を維持するとともに、年少人口を約 350 人程度となるように設定した。



将来人口推計

区分	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
将来目標人口	3,027	2,750	2,598	2,460	2,343	2,254	2,189	2,145	2,131	2,132
前回目標値(人口減少抑止モデル)	2,855	2,649	2,486	2,361	2,257	2,169	2,092	2,042	2,023	2,014
社人研推計(2018年)	3,027	2,778	2,549	2,323	2,098	1,885	1,690	1,526	1,396	1,281

図表　将来人口の想定



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	255	253	268	267	283	305	327	343	349	348
15～64歳	1,510	1,208	1,097	1,102	1,100	1,091	1,111	1,121	1,146	1,193
65歳以上	1,262	1,289	1,233	1,091	960	858	751	681	636	591
合計	3,027	2,750	2,598	2,460	2,343	2,254	2,189	2,145	2,131	2,132
高齢化率	41.7%	46.9%	47.5%	44.3%	41.0%	38.1%	34.3%	31.8%	29.8%	27.7%

図　年齢3区分別　将来目標人口

3-3. 自然増減の設定

自然増減の設定としては、自然減に関する生存率については社人研の設定値を用いて算定し、出生に関する指数となる合計特殊出生率については、2020 年設定値の 2.18 を維持するものとして算定した。

表　合計特殊出生率の比較

区分	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年
前回設定値	1.65	1.77	1.90	2.02	2.16	2.29	2.29
社人研設定		2.18	2.19	2.16	2.19	2.18	2.16
今回設定値		2.18	2.18	2.18	2.18	2.18	2.18

2045 年以降は同じ数値

3-4. 社会増減の設定

今回の想定に当たっては、できるだけ生産年齢人口の男女格差を減少させることも踏まえ、社会増の維持や目標人口に近づくように、社人研の移動率の修正および施策的移動数を設定した。

社人研の設定では、14 歳以下も社会減が生じる設定になっているが、14 歳以下の社会移動は、男女ともゼロに設定（転出・転入の均衡）した。

表　移動数の改善数

		2045 年までの改善数	2050 年以降の改善数
男	10～14 歳→15～19 歳	5 人	3 人
	25～29 歳→30～34 歳	5 人	3 人
	30～34 歳→35～39 歳	5 人	3 人
	合計	15 人	9 人
女	10～14 歳→15～19 歳	10 人	10 人
	20～24 歳→25～29 歳	15 人	10 人
	25～29 歳→30～34 歳	10 人	10 人
	合計	35 人	30 人
移動数改善の男女合計		50 人	39 人
平均社会増減数		37.3 人	

※5 年間の移動数の改善数

平均社会増減数は、2020 年～2065 年までの平均値（5 年間毎の社会増数）